185. 親子の対話のあり方

【問い】中学３年の男の子ですが，先日「家庭の日」に親と子の話し合いをしたところ，途中で怒ってしまい，けんか別れのようになりました。親と子の話し合いをうまく進めるには，どういう点に注意したらよいでしょうか。

【答え】共働きで，日ごろ子どもとゆっくり話し合うことができないため「家庭の日」を活用して親と子が話し合いをするということは，大変ほほえましくいい計画です。うまくいけば，きっと子どもの日ごろの不平・不満は解消され，親への信頼感・尊敬の念も一層強くされて，子どもはあすからの生活に自信と張りをもつことでしょう。しかし，一歩誤ると，親と子の間にしこりができる心配もあります。

まず，生活をともにしている親子の場合は，改まって話し合いの時間を設けると，どうしても構えができ，意識し過ぎて形式じみた話し合いになり勝ちです。従って，毎日の生活の中で，自然と親子の話し合いが生じるように，親はいろいろな場面で配慮することが先決です。

次に，話し合うときに注意したい点は，①子どもと同じ座に立つということです。「聞いてやる，教えてやる」という立場からでなく，子どもと対等の姿勢・ともに考える立場で話し合わなければ，今の子どもは心を開かないでしょう②また，話は親子交互にすることです。とかく親は，このときとばかり一方的に話し続けることがよくありますが，交互にやりとりするところに，親子の相互理解・心の交流が図られるのです③さらに，間をとることも大切です。途切れなく話し合うのではなく，間を置き，子どもに考える時間を与えることが必要です。それによって，子どもの創造的な思考力が培われ，自己啓発の機会が与えられるからです。

また，間によって，親のことばは子どもの心により深くひびくものです。